



“私わたしの挑ちようせん戦” [ビジネスプラン誕生の裏側]

京黒紋付染で衣類をカッコよくアップサイクルして廃棄衣類の削減

伝統産業を守るため
その技術を現代に活かす



株式会社京都紋付

所在地/京都市中京区壬生松原町51-1
電話/075-315-2961(代表)
URL/http://www.kmontsuki.co.jp/

マーケットの「最高」と「最低」の両方を私は見てきました。着物市場は1975年に2兆円でしたが、現在3000億円弱。紋付も300万反から50000反に。このような市場にありながら、私たちがどのように活路を見出したのか、お話ししましょう。

弊社は1915年創業。黒専門の染屋として「より黒く、美しく、色落ちしない黒」を追求し続けてきました。中でも「黒紋付」は弊社の技術の結晶。しかし黒紋付の需要は生活スタイルの変化と共に減少し、現在では宝塚の卒業式、能などの伝統文化や芸妓など限られたニーズになってきました。マーケットの縮小に対応するために、事

業領域を黒紋付染主軸のビジネスから、洋服の黒染めを行うビジネスに転換しました。その洋服の中でも古着や在庫を染めることに活路を見出しました。2013年、折しもCSRが活発な頃。CSRとこのアイデアがマッチすると閃いたのです。しかも黒染めにより格好良くなる服が



現在は月1,000着ほどの染め替えを受注。天然素材のみが黒く染まるため、洋服の素材によってさまざまな表情に変化する。

沢山あるのに気づきました。「着て二回染しめる、新たな価値を提供できるのです。当初、洋服の黒染めは手がかかるものでした。そこで従量課金を簡便なアイテム課金に変え、ICT技術をひるまずに導入。完成したのは簡単にスマートなウェブ受注システムです。しかも、「黒染を自社ショッブでも受注したい」「社員向け福利厚生に活用したい」場合には弊社のアフィリエイト(成果報酬型)を活用したシステムを無償供与しています。現在、SDGsの追い風を受け、多数ファッションブランドや百貨店とのコラボ・サービスの提供をおこなっていますし、海外への販路拡大も目指しています。伝統を伝統のまま守るだけでは、この景色は見えませんでした。「伝統を守りつつ、その技術を現代に活かす」ことこそ、活路を開く道標だと私は思っています。

荒川 徹 株式会社京都紋付 代表取締役社長

1958年生まれ、京都市出身、1996年に4代目就任。紋付の低迷と共に2000年から長年培ってきた黒染めの技術を洋装の黒染めに活用し、他には類を見ない深く、美しくかつ、高い堅牢度の黒染めの技術「深黒加工」開発に成功。「御黒染司」の商標を登録した。2009年には「KUROZOMEデニム」を発売、ビジネスプランが京都商工会議所の「第1回知恵ビジネスプランコンテスト」の認定を受けた。趣味は親父サッカー。

ビジネスプランの詳細はこちら

<https://www.kyo.or.jp/chie/contest/gp/117434.html>



今後予定している支援

伝統産業を守り、廃棄衣類を削減する本プランをさらに推進するため、荒川社長によって「一般社団法人REWEAR協会」が設立されます。「染替え可能衣類」、「再生衣類」であることを標記した下げ札の発行など、幅広い活動を行う協会のプレスリリースをはじめとした広報支援を行います！